

☆ Society of Japan Clinical Dentistry ☆

2017年度 東京 SJCD 第1回例会・懇親会のご案内 第1回 日本臨床歯科医学会 学術大会・総会併催

新緑の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、来る5月28日（日）に開催されます2017年度 東京 SJCD 第1回例会についてご案内申し上げます。

今回はインサーストレイニングとして、東京 SJCD マイクロデンティストリーコース講師 岡口守雄先生にご登壇いただき、拡大視野下での治療を中心に、精密治療の極意を解説していただく予定です。

ケースプレゼンテーションにおいては、診査・診断に基づく高度な治療を実践されている3名の先生方をお願いしており、発表内容も三者三様で大変充実したものとなっております。

また今回は、「第1回日本臨床歯科医学会 学術大会・総会」と併催となるため、満足度の高い例会となるよう、委員会一同準備を進めております。

例会後には毎年大好評の懇親会も用意しておりますので、皆様お誘い合わせの上、是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

日 時 2017年5月28日（日） 受付開始 9:30 / 開演 10:00～17:00

会 場 都市センターホテル/コスモスホール 3F

懇親会会場 17:30～ / 都市センターホテル オリオン 5F

所在地 〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-1 **TEL** 03(3265)8211

-インサーストレイニング-

「マイクロスコープを用いた精密歯科治療」 岡口歯科クリニック 岡口守雄先生

-ケースプレゼンテーション-

「形態改善を伴う前歯部審美修復治療の実際」

天川デンタルオフィス外苑前 天川由美子先生

「機能と審美性の獲得を目的とした全顎的な修復治療」

加部歯科医院 加部聡一先生

「矯正既往のある患者に行った咬合再構成において

その経時的変化を3次元分析法で解析した一症例」

プレミアムデンタルケア恵比寿・代官山 高井基普先生

『マイクロスコープを用いた精密歯科治療』

岡口守雄(岡口歯科クリニック)

■略歴

- 1976年 明治大学政治経済学部経済学科卒業
- 1986年 岩手医科大学歯学部卒業
- 1993年 東京都千代田区にて開業

■所属団体

東京 SJCD 理事、東京 SJCD マイクロスコープインストラクター、JEA 関東歯内療法学会会員、日本顎咬合学会指導医、カールツァイス公認マイクロスコープインストラクター、AMED(academy of microscope enhanced dentistry)会員

■抄録

17年前に出会った、マイクロスコープがもたらす拡大視野の歯科治療は、私の臨床の最大の技術革新です。マイクロスコープが普及した現在、単に見るためのツールではなく、いかに使いこなすその拡大視野の世界を精密な臨床に反映させるかがテーマになってきていると思います。審美治療、MI を極めようとするとき、肉眼を超えた処置が必ず必要になります。修復物を適合させるオーダーをいかに下げることができるか、健全なエナメル質をいかに切削せず残していくか、充填物の移行部の滑らかさなどマイクロスコープなしには達成できません。さらに、肉眼では見ることができなかつた歯内療法の世界においても、マイクロスコープ下では、複雑な解剖学的形態に潜む様々な感染源を実際に見て治療することができるようになりました。そして、CBCT、OK マイクロエキスカといったツールを使用することにより従来、難治療症例といわれ抜歯を余儀なくされていたケースにおいても、保存できる可能性が大きく広がりました。

また、一方で、歯内療法におけるもう一つの重要なカテゴリーである Vital pulp therapy(歯髄保存)もマイクロスコープの登場により大きく変化してきています。拡大視野の中で行う精密で限局的な感染象牙質の除去により、従来の基準では、保存が不可能であると思われていた歯髄も残すことができるようになってきたのです。このように、マイクロスコープはただ見るだけではなく使いこなすことで私たちの手を「ゴッドハンド」に変えてくれる可能性を秘めたツールです。

また、我々のグループの標榜する一口腔単位を総合的に捉えながら治療ゴールを目指すためには1歯1歯の確実な治療が不可欠になります。可及的に歯髄や歯牙を保存する事によって治療プランがシンプルとなります。そのためにはマイクロスコープは無くてはならないツールであり、現在私の歯科臨床ほぼ全ての処置をマイクロスコープ下で行っていますが、その中から様々な症例を、動画を交えてご紹介したいと思います。

『形態改善を伴う前歯部審美修復治療の実際』

天川由美子(天川デンタルオフィス外苑前)

■略歴

- 1994年 鶴見大学歯学部卒業
- 1999年 鶴見大学大学院修了 博士号(歯学)取得
- 2007年 港区 天川デンタルオフィス外苑前 開設
- 2009年 Women Dentists Club 東日本支部長
- 2011年 関東歯内療法学会 常任理事

■所属団体

日本補綴歯科学会、日本歯内療法学会、日本接着歯学会、日本顎咬合学会、日本審美歯科協会、東京 SJCD、港区麻布赤坂歯科医師会、Women Dentists Club(東日本支部長)、American Association of Endodontists、Academy of Microscope Enhanced Dentistry

■抄録

審美修復治療は、色調改善、形態改善、実質欠損修復に分類される。色調改善のみを目的とし審美修復治療を行うことは稀で、多くは形態改善や実質欠損を伴う治療となる。当院には多くの方が、「歯を削らないで綺麗にして欲しい」と来院される。これは、審美修復治療の様々なオプションが、一般にも浸透しつつあることをあらわしている。すなわち、「歯を綺麗にする」=「歯を削ってオールセラミック修復」ではなく、コンポジットレジンやラミネートベニアなどを応用した MI な治療も審美修復治療であり、患者は出来るだけ天然歯を削らない方法を望んでいるのである。今回、矯正治療終了後にラミネートベニア修復を行った症例を供覧し、形態改善を伴う前歯部審美修復治療について考えてみたいと思う。

『機能と審美性の獲得を目的とした全顎的な修復治療』

加部聡一(加部歯科医院)

■略歴

1999年 東京歯科大学卒業
2001年 東京医科歯科大学第2補綴科専攻課程修了
2001年～2004年 (医)英知会 あいはら歯科医院勤務
2004年 加部歯科医院勤務、副院長

■所属団体

東京 SJCD(理事)、日本顎咬合学会(認定医)、日本口腔インプラント学会、T's Forum

■抄録

修復治療を行う目的は失われた「機能」及び「審美性」を回復することにある。そして将来的に永続性のある治療を行うには「構造力学」や「生物学的恒常性」を満たす必要がある。治療において複雑な咬合再構成を行う必要がある場合は、顎位や欠損、トゥースポジション、残存歯の予知性など何が問題点で、何を解決し、治療のゴールはどこにあるのかを、より慎重に分析した上で進め、さらにステップごとの再評価が欠かせない。臨床ではエビデンスやリサーチを基に、個々の生体の反応を見て検証し考えていくことしか確信を持って先には進めないのではないだろうか。

今回の症例は69歳の女性。左上の2カ所の修復物脱離を主訴として来院。様々な不調和を来たしており全顎的な修復治療を行うこととした。まだ術後1年ではありますが、診査から現在の状態までを報告いたしますので、ご指導、ご助言を承りながら、皆様とディスカッションさせていただきたいと存じます。

『矯正既往のある患者に行った咬合再構成においてその経時的変化を3次元分析法で解析した一症例』

高井基普(プレミアムデンタルケア恵比寿・代官山)

■略歴

平成10年 岡山大学歯学部卒業
平成10年 ナディアパークデンタルセンター勤務
平成13年 アン歯科勤務
平成14年 本多歯科医院勤務 伊藤歯科医院勤務
平成19年 UCLA Short term fellow
平成19年 東京ミッドタウンデンタルクリニック院長就任
平成23年 プレミアムデンタルケア恵比寿・代官山 開業

■所属団体

S.J.C.D.大阪会員、S.J.C.D.東京会員、日本顎咬合学会会員、O.J 正会員、日本接着歯学会会員

■抄録

歯の位置と形態，歯周組織，顎関節および筋・周囲組織は日々刻々と変化している。同時にそれらすべてが調和することで，顎口腔系は生物学的に安定する傾向を持つ。一方，口腔内疾患とは，その調和が乱れることによる組織の生物学的破綻を意味する。すなわち，歯科治療の本質とは乱れた顎口腔系の調和を再建することなのだ。ところが、治療咬合を付与した症例が，我々が思い描いた予定調和から外れ，時に著しく不安定な状況となってしまう事も有る。

特に，矯正治療やインプラント治療を伴った複雑な補綴症例は，咬頭嵌合位の脆弱性がより顕著であるように感じている。

そこで今回は，矯正治療の既往がある患者に対しインプラント治療を併用し咬合再構成を行った症例において，咬合接触状態・下顎位・歯の位置の経時的変化を解析することで見えてきた咬頭嵌合位脆弱性の実際と対応を視覚的にお伝えできればと考えている。